

# いのはな便り

肺がん CT 検診認定機構メールマガジン  
第9号 (2015年1月号)

---

あけましておめでとうございます

東京都予防医学協会  
金子昌弘

寒波の襲来で、大雪の被害も続いた年末年始でしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、本号では、昨年11月の7号に引き続き、RSNAでの話題を中心に国立がん研究センター東病院の村松放射線技師長に報告していただきました。寝ころがりながらも読めるように、軽い語り口で書いていただきましたが、あれだけ巨大な米国の放射線学会のフットワークの軽さに驚くばかりです。

わが方も、CT検診先進国の意地で、これらに負けないシステムを立ち上げる必要性をひしひしと感じさせられました。

今年も皆様方のご協力とご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

---

## RSNA2014 報告 —肺がん CT 検診を中心に—

国立がん研究センター東病院 放射線診断科 村松禎久

作文は苦手であったはずなのですが、前回(第7号<sup>1)</sup>)書かせていただいた“いのはな便り”の砕けた語り口が金子昌弘代表理事には好評だったようで、再度、機会をいただきました。今回は、昨年11月末に米国シカゴで開催された第100回北米放射線学会(RSNA)の様子を、肺がんCT検診を中心に(今回は口語調で)レポートします。

さて、RSNAは言わずもがな放射線医学領域における世界最大の学会です。前述したように、なぜかそ寒い時期のシカゴで開催されるかは、開催期間6日間で延べ約6万人の参加者かつ展示企業700社を収容することを考えれば、理解は容易です。とくに今回は100回目の記念すべき大会であり、このタイミングに「肺がんCT検診認定機構の認定技師制度をまとめた内容」を世界に発信できたこと、また花井耕造副代表理事(First Author)と山口功理事(Co-Authors)とともにMcCormick Placeを闊歩できたことの幸せは、何にも代えがたいものがありました。長尾啓一前代表理事、

金子代表理事，ならびに理事各位をはじめ，肺がん CT 検診認定機構を支える関係者の皆様にこの場をお借りし，御礼を申し上げます．

では，本題のリポートに移りましょう．

すでにお知らせしたように，Centers for Medicare and Medicaid Services (CMS, USA.gov) が特定の喫煙者に年 1 回の健康保険適用を決定（詳細は第 7 号を参照）したために，開催前から肺がん CT 検診は RSNA2014 において Hot な話題になるだろうと言われていました．渡米前に開催プログラムを検索すると，CMS の決定を見越していたというよりも，USPSTF (U. S. Preventive Services Task Force: ACS) が Grade B に格付けしたことですでに走り始めていたように思えます．実際に関連するセッションはいずれも盛況で，Refresher Course201: Lung Cancer Screening (RC201) の会場に足を踏み入れると，600 人程度は収容できると思われる会場が最前列まで着席しても立ち見の出る状況でした．また RSNA 後になりますが，AuntMinnie では 2014 年における Top 10 Story<sup>2)</sup> にも選出されました．

RC201 では，Dr. Ella A Kazerooni (Prof.: University of Michigan) が Moderator を務め，American College of Radiology (ACR) が立ち上げた The ACR Lung Imaging Reporting and Data System (LungRADS)<sup>3)</sup> を解説されました．LungRADS を一言で表現すれば，肺がん CT 検診における精度管理（システム）の総称です．CT 画像の判定基準と指導区分が規定され，受診者の統計データ（受診者数，カテゴリー分布，陽性的中率等）を規格化しています．

またこれらの作業を各施設で容易に実行できるように専用のソフトウェア (VEOlity: MeVis Medical Solutions)<sup>4)</sup> が並行して開発されており紹介がありました．RC201 の後に山口理事とともに機器展示 Booth に訪問し，Mr. Christian Behrens (Product Manager) より VEOlity を解説していただきました．経過観察を基本とした CAD 機能を持つ Viewer であり，インターネット回線を通じた e-learning 機能も準備されていました．広大な米国で一定の検診精度を図るためには e-learning は必須です．

さらには，これらのすべてのデータの ACR 専用サーバへの登録 (Lung Cancer Screening Registry) が予定され，NRDR (National Radiology Data Registry) のひとつとして位置付けています．近々にデータの仕様が公表され，本年 3 月には登録のための Interface が準備されるとのことでした．なお，今のところ LungRADS への参加は任意とされていますが，ACR はこの事業を CMS に承認することを求めており，これが決定すればいわゆる診療報酬制度における施設基準となることは容易に想像できるでしょう．

では，そんなに簡単に CMS が承認するのかと問われれば，たぶんハードルは低いと考えられます．米国では通常の放射線診療，たとえば CT 検査において，各施設は ACR Accreditation<sup>5)</sup> を装置毎に取得しなければ診療報酬制度の恩恵を得ることはできないのです．第 7 号で「CMS の決断で米国が爆発的な加速度で進むことは容易に想像できる」と書きましたが，

正にこれを実感した RSNA2014 であったことを記し、レポートの終わりと致します。

#### 文献

1) いのはな便り：肺がん CT 検診認定機構メールマガジン，第 7 号（2014 年 11 月号）

[http://www.ct-kensin-nintei.jp/inohana/pdf/inohana\\_vol7.pdf](http://www.ct-kensin-nintei.jp/inohana/pdf/inohana_vol7.pdf)

2) Top 10 AuntMinnie stories for 2014

<http://www.auntminnie.com/index.aspx?sec=nws&sub=rad&pag=dis&ItemID=109724>

3) The ACR Lung Imaging Reporting and Data System (Lung-RADS™), <http://www.acr.org/Quality-Safety/Resources/LungRADS>

4) VEOLity: Mevis Medical Solutions, <http://www.veolity.com/index.php?118>

5) CT Accreditation Program: ACR, <http://www.acr.org/Quality-Safety/accreditation/CT>

---

### 本機構主催の講習会などのお知らせ

#### 第 8 回 認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会

・日時：2015 年 2 月 14 日(土曜)

・場所：大阪国際会議場

参加申し込み受付中です、詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/ishi/workshop/index.html>

#### 第 13 回 肺がん CT 検診認定技師 定期講習会

・日時：2015 年 2 月 28 日（土曜）3 月 1 日(日曜)

・場所：駒沢大学

詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/workshop/index.html>

#### 第 6 回 肺がん CT 検診認定技師 更新講習会

・日時：2015 年 2 月 28 日（土曜）

・場所：駒沢大学

詳細はHPでご確認ください。

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/koushin/kousyukai/index.html>

## **第 22 回 日本CT検診学会学術集会**

日時 2015年2月13日(金)～14日(土)

場所 大阪国際会議場 1003号室

大会長：中山 富雄(大阪府立成人病センターがん予防情報センター)

<http://plaza.umin.ac.jp/~jscts22/>

本機構の設立母体となった、最も密接な関係のある学会の学術集会です。今回の大会長の中山先生はCT肺がん検診の有効性を検討する研究班の班長も長年勤められておりますので、今回の大会でも効果に関する内外の研究の紹介やそれに関するシンポジウムも企画されております。

認定医師の更新講習会も併設して行われますので、ぜひお誘いあわせの上ご参加することをお勧めします。

\*\*\*\*\*

### **編集後記：**

皆様、遅ればせながらあけましておめでとうございます。

昨年末にはノーベル賞受賞などの明るい話題があり、今年は良い年になるかと期待しておりましたが、新年早々から海外からはとんでもないニュースが飛び込んできました。しかしその後のヨーロッパ諸国の一般の人々や政治家の行動力には目を見張るものがありました。

平和が続くことは素晴らしいことではありますが、日本では国民全体がそれに慣れてしまいおとなしい良い子ばかりになってしまっているように見えてなりません。

暴力に訴えることは決して許されませんが、学問や政治の分野では火花を散らすような論戦があっても良いように思います。

肺がん死亡を減らすために、皆様方の熱い情熱がますます燃え上がることを期待しております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。(文責：金子昌弘)

---

いのはな便り 第9号 2015年1月16日発行

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻3-6-6 イノハナビル3階  
有限会社エッセン内 「肺がんCT検診認定機構事務局」

編集責任者 金子昌弘

TEL：043-226-1298

FAX：043-226-1299

E-mail: [jimdai@ct-kensin-nintei.jp](mailto:jimdai@ct-kensin-nintei.jp)

WEBSITE: <http://www.ct-kensin-nintei.jp/>